人間社会デザインコース，環境地理学

E-ラーニングシステム Moodle を利用した文献学習

社会科専修・川瀬久美子

１．授業の概観

人間社会デザインコースは平成 20 年度に新設されたコースであり，3 回生を対象とした「環境地理学」は今年度前期からの開講である。本コースにおける自然地理学的な学習の流れは，以下の通りである。「自然地理 I」（1 回生後期開講）では，自然地理学の基礎知識や思考方法の基礎を学習し，3 回生対象の「自然地理 II」（３回生前期開講）において自然地理学的調査・研究手法を体得すると同時に，「環境地理学」（3 回生前期開講）において社会が直面する環境問題について文献に基づいて理解を深める。

今回は，文献学習のテキストを教員からいくつか提示したところ，受講生の多数決でロバート・ゲスト（2008 年）「アフリカ 苦悩する大地」（東洋経済新報社）を読むこととなった。「環境問題」を自然環境に限定せず，歴史的環境・経済的環境・政治的環境にまで広げた上でのテキスト選択であったが，結果的に「自然と人間の関わりを考える」という「環境地理学」の授業目的からは逸脱してしまった。しかし，テキストに対する学生の関心は終始高く，授業については全体的に満足のいくものと評価されている。

今回は，文献学習において E-ラーニングシステムの Moodle を利用することを試みた。筆者がこれまで行ってきた文献学習は，各回に報告者を定め内容を整理したレジュメを作成させ，全員が文献を読んできたことを前提に，報告者の内容整理の後，質疑応答・討論，というスタイルであった。しかし，このスタイルには以下の問題点が見受けられた。

① 報告者以外の受講生が文献を読まずに授業に臨むことがある。
② 全員が文献を読んできた場合，報告者による内容整理の意味が薄れる。
③ 質問・意見を募っても発言がまれで，文献の理解も浅く討論も不発に終わる。

①②は教員による受講生の指導に問題があるのかもしれない。しかし，「文献を読まずに出席しないこと」「質問や意見を積極的に出して欲しい」と口頭で注意しても改善されないならば，さらに何らかの仕掛けが必要である。

今回の文献学習では，特に各回の報告者を定めず，受講生全員に対して，金曜日の授業の前の水曜日までに、Moodle に以下のことを書き込むことを義務づけた。

（１）どのような問題（現象）が取り上げられているか。
（２）その問題（現象）の原因・背景について、著者はどのように考えているか。
（３）著者の考えに対して、あなたはどう考えるか。
（４）皆で考えたいこと、他の人の意見を聞いてみたいこと。

そして，授業では教員が司会進行をして，（１）（２）については書き込みの中から，最も適切に表現されていると思われた受講生のものを紹介した（授業では毎回プロジェクターで Moodle 画面を投影した）。そして，（３）（４）については，重複する内容の書き込みを整理した上で，多くの受講生が関心・疑問に思ったことがらについて，他の受講生から意見を募って，討論を進めた。授業終了後には，討論の内容を教員が「授業記録」として Moodle 上に書き込み，内容の振り返りを可能にした。

半期の授業途中では，受講生から授業の進め方に関する意見の書き込みがあった。そこで，授業の目的と意義（アフリカの問題について学ぶことの意義）について話し合い，進め方（考えがまとまらずに発言できないうちに進んでしまう，等）についても改善方法を相談した。

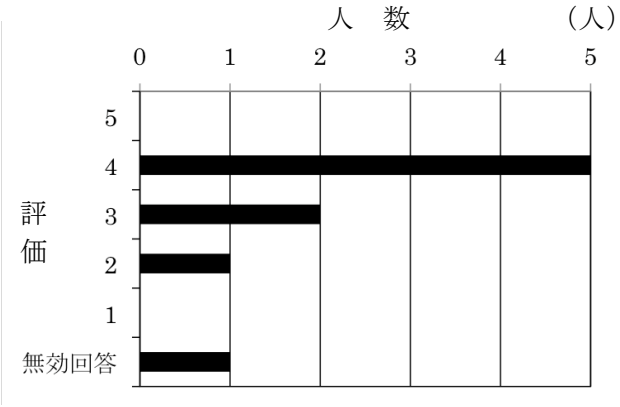
２．授業評価法

最終回に無記名で，４つの質問項目には 5 段階評価とコメントを，授業の改善点についてはコメントを記述してもらい，授業評価アンケートとした。

なお，今回の受講生は 9 名で全員が人間社会デザインコースの３回生である。また，9 名の回答者のうち１名は，５段階評価を質問項目にわけず総合的に３として提出しているため，評価のグラフ上では無回答とした（ただし，各質問項目にたいしてコメントは記入している）。

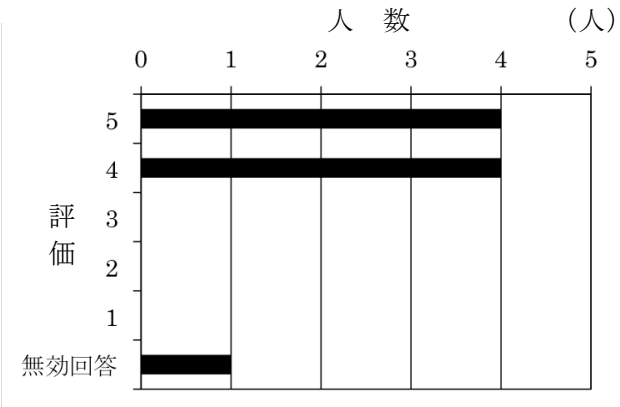
３．授業評価結果

１）全体として意味のある授業だったか？



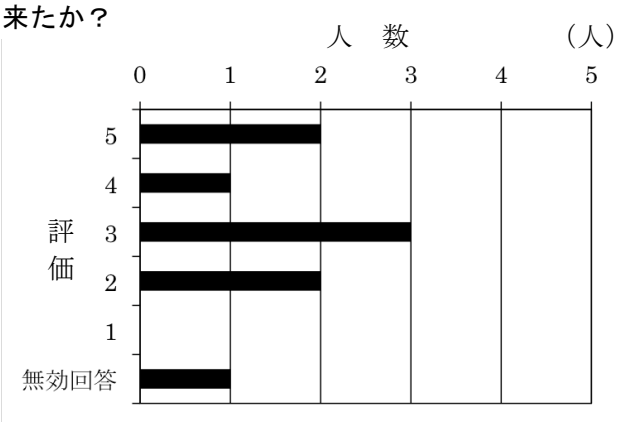
・ アフリカの現状についての理解を深めると同時に，皆で意見を出し合うことで内容も少しは深められたので，全体としては意義のある授業であった。
・ アフリカの問題について考えたことで，世界の問題を当事者として見るという意識は高まった。しかし，具体策がなかったのでマイナス１。
・ 知らないこととみんなの意見が聞けたことが意義あることでした。
・ 南アフリカで W 杯もあり，ホットな話題でもあったし，知らなかったことがたくさんあり，それがまた日本と関連させて考えられたのがよかったです。
・ アフリカの問題やそれに対する友人の考え方などを聞き，自分の視野が広がった部分がある。
・ 本を決める段階から参加できれば良かったなと思ってます（筆者注：初回の欠席者か？）。進め方自体は好きでした。
・ ディスカッションをしたり，それぞれで調べてきたりして，深めることはできたが，私達の知識は限度があった。
・ 深い話につなげにくい内容だった。
・

２）新しい知識や考えを獲得できたか？



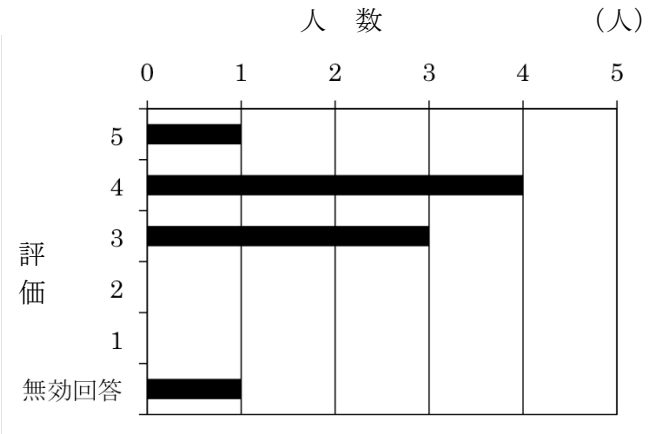
・ 知識や情報は獲得できたが，まだあやふやで忘れてしまっていくと思うので，友達と話すことで深めたり，固定観念を取り払うことができたら，と思う。
・ 今まで知らなかったことを多く知ることができた。
・ アフリカの本を１冊読んで，全く知らないことが多かったし，みんなの知っていることを基にした意見も聞けた。
・ アフリカの歴史や現状，問題点などを知れた。
・ テキストの章が多く，テーマは違うが根本の問題が同じであること，前の知識をもって臨むとより深い知識が得られること。
・ いろいろな話を聞けてためになった。
・ 本それ自体は興味深かった。

３）コミュニケーションスキルを伸ばすことが出来たか？



・ あまりのばせなかったように感じる。先生にうながされて自分の意見を述べることはあっても，人の意見に対して感じたことをすぐに返せないことがよくあった。
・ 皆で議論する機会が多かったため，質問や説明の仕方についてよく考えることができた。
・ 自分の意見をまとめ伝えるのはやはりまだまだ至らない点だらけです。でも，このような機会が複数ないとスキルアップできないので，良かったです。
・ 難しい題材などもあり，発言しにくかったこともありましたが，積極的に発案などができたと思います。
・ 全員同じコースの人でしたが，元々こういう話題も普段話すので（筆者注：評価が３とされた理由か）。
・ みんなで話すことができたけど，いつも話すメンバーなので，スキルの向上までは…
・ うまく話せなかった。

4）Moodle の利用はこの授業に有効だったか？



・ 有効であったと思う。ネットを使うことで紙の無駄も省けてエコだと思う。
・ hsd（教員注：人間社会デザインコース）のコミュニティサイトの方が使いやすかったのではないか。
・ 久しぶりに使ったので，思い出すという点でも良かったと思います。今までの授業も振り返られるノートのような役割もあったと思います。
・ 自分で文章にすることで，理解の整理ができました。他の人の意見も，もっとじっくり見たかったです。
・ 授業のまとめを振り返ることができるのは良かったです。
・ 書き込めるのはいいが，やはり他の人の意見も見れたほうがよかったのでは？
・ よく分からない。
・

5）授業の改善点

・ 講師（？）をよんで，もっと内容を具体的にできるものにすればいいと思った。
・ 1 章ごとに報告者がいてもよかったのでは？
・ 新たな知識もあったし，人とそれについて話すことで考えも深まったが，あまり地理的ではなかったし，先生の専門性が生かされていなかったと思う。もっとコアな知識を得る授業が良かったかなと思う。
・ アフリカより身近なものの方が答えが出たかも。
・ 今までのレジュメを担当者が作って…という形態より個人が文献を読んでいないとついて行けないという点で，自分のためになりました。確かに“環境地理”かという疑問はありました。はじめは，環境問題もからむかなと思いました。
・ 時々授業の目的が見えにくくなることがあったので，話の筋をもっと整理できたら良かったと思います。
・ 今回（筆者注：授業最終回）M さんが You Tube を部分的に紹介しただけでも自分の中で抱くイメージとは異なっていた部分に気づけた。知識を現状に近づける為にも，所々で映像を用いるのは有効かと思った。
・ 同じテキストを読むことに意義があったのでは，と思うが，各自で本を探させると新しい発見があるかもしれない。
・ テキストをもう少しじっくりよみこみたかった。内容の多い章は 2 回に分けても良かったのでは？
・ 使う本はもっと身近な内容のもののほうがいいと思う。

4．まとめ

特に Moodle の利用に焦点を絞って考察する。

Moodle の利用に関しては，無回答を除くすべての学生から 3 以上の高い評価を得た。コメントからは，これまでの文献学習のスタイルでは“漫然と読んでおく”傾向にあり，そのことが授業時の質疑・討論の沈滞につながっていたことが推察される。今回は，全員に毎回 Moodle に書き込ませることで，能動的な“読み”を促す仕掛けづくりに成功したと言える。ただし，今回の Moodle の設定では，教員は受講生全員の書き込みを閲覧できるが，受講生は他の学生の書き込みを閲覧できないようにしてあった。この点は改善の余地がある。また，授業の振り返りができるという評価は，①毎回の各自の書き込み と②教員による授業記録の書き込み の両者を指していると考えられる。受講生にはできるだけ討論に集中して発言して欲しいとの願いから，今回は敢えて司会・記録を教員が引き受け，Moodel への書き込みも担当した。司会･記録を学生に持ち回りで担当させて，さらに学生主体の授業づくりへと発展させることは可能であろう。また，各回に報告者を設定し，報告者は受講生の質問・意見の書き込みを整理した上で授業に臨み，ディスカッションの議題設定をしてもらうという方法もあり得る。

今回 Moodle で実施したのと同様のことは，紙媒体の用紙を準備して実施することができる。授業の数日前に紙で質問項目などを報告者に提出させ，報告者は内容整理と質問への回答を授業時に用意するという方法である。しかし，紙媒体では提出のタイミングを取るのが難しかったり，用紙が散逸したりすることが想定される。ネット環境さえ整っていれば，学生が空き時間に自由に書き込み，閲覧できるという Moodel のメリットは，今後もさまざまな授業改善に生かすことが出来ると考えられる。